

「平和記念式典への参加」 E班

・平和記念式典について 石塚さくら (藤岡第二)

私たちは8月6日、平和記念式典に参列してきました。

平和記念式典は、原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念するために、平和記念公園の広島平和都市記念碑の前で行う式典です。この式典は、1947年に「広島平和祭」として第1回が催され、平和記念公園が開設された1954年以降は現在の形式で行われているそうです。

平和記念式典は、午前8時に開式します。まず、原爆死没者名簿奉納を広島市長と遺族代表で行います。次に広島市議会議長による式辞、遺族代表、子ども代表、被爆者代表の方たちによる献花、そして、8時15分に黙とう、平和の鐘が鳴らされます。その後、平和宣言、放鳩、広島市の小学生による平和への誓い、安倍総理大臣らによるあいさつがあります。最後に、ひろしま平和の歌を合唱し、閉式となります。

・参加して心に残ったこと① 黒崎友稀 (栃木南)

僕たちは、広島で行われた平和記念式典へ参加してきました。平和記念式典には、各地からたくさんの方が参列していました。

平和記念式典では、安倍総理大臣、広島市議会の山田議長、松井広島市長、子ども代表の金田さん、石橋君がスピーチをされました。

どの方の話聞いていても、絶対に戦争を起こしてはいけないという強い気持ちがとても伝わってきました。また、戦争の怖さを話して下さりとても心に沁みました。

平和記念式典に参加してきて、学校の授業では分からないようなことを知ることができました。やはり、戦争は二度と起こしてはいけないと強く感じました。そして、平和をつかっていくのは自分たちだということに気付かされました。

このことを戦争についてあまり知らない、同級生、学校の人たちなどに、一人でも多く伝えていくことが、僕たちの使命だと思うので、しっかりと伝えていきたいと思います。

・参加して心に残ったこと② 根本晃聖 (都賀)

私は、平和記念式典に参加していろいろな方のお話を聞きました。その中でも一番心に残っているのは、広島市の小学生の平和への誓いです。

「『ありがとう。』や『ごめんね。』の言葉で認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。」という言葉が心に残りました。この言葉を聞いて、私たちのような子どもでも平和をつくることができると思いました。

例えば、自分とは考え方の違う人に出会ったとき、「その考え方は間違っている。」と否定するのではなく、「そういう考え方もあるんだね。」と理解することが大切だと思います。そうやって、自分の周りから、自分たちの力で少しずつ平和をつくっていきたいです。

・参加して学んだこと① 佐藤美裕（吹上）

私は、平和記念式典に参加して、多くのことを学びました。

平和記念式典では、たくさんの方のお言葉がありました。その中でも私は、広島市長の平和宣言と、子ども代表の平和への誓いの言葉が強く印象に残りました。

広島市長の平和宣言の中に、「一人の人間の力は小さく弱くても、一人一人が平和を望むことで、戦争を起こそうとする力を食い止めることができる。」という言葉がありました。また、平和への誓いの中でも、「自分の身の周りを平和にすることは子どもでもできること。」という言葉がありました。私は、この二つの言葉から、改めて、一人一人の平和を願う気持ちの大切さを感じました。そして、私たち子どもも、平和な未来を築くために、努力しなければならないということを学びました。一人一人が平和への努力を続けることで、きっと戦争のない平和で素晴らしい世界が実現できると思います。

・参加して学んだこと② 槌谷佳美（栃木東）

式典には、約5万人の日本人だけでなく、92か国とEUの代表など、外国の方々も数多く参加していました。私は、日本だけでなく、世界中に核兵器廃絶の思いが広がっていることに感銘を受け、そして大変心強く思いました。

式典に参加して、私は、私たち若い世代も被爆体験を多くの人に伝えていかなければならないと思いました。式典で安倍総理大臣は、「被爆の悲惨な実相に触れることで、平和への決意を新たにすることができる。」とおっしゃいました。被爆者の平均年齢が82歳を超えた今、私たちのような若い世代が被爆者から伝えられたことを、多くの人に語り継ぐことは大切なことだと思います。そして、これは唯一の戦争被爆国としての使命だと思います。私は、3日間広島に行って学んだこと、感じたことを、まずは身近な人に伝えたいと思います。そして、将来は世界中の人たちにも伝え、共に平和を考えていきたいと思っています。